

令和6年度 第2回深谷市子ども・子育て会議
議事要旨

日 時：令和6年8月27日（火）午後2時00分～午後4時00分

場 所：深谷公民館 大会議室

出席者：田中 菜留美委員、萩原 徹也委員、那須 信也委員、押野見 孝道委員、鈴木 雅美委員、金子 京子委員、神庭 ひろ子委員、山崎 幸子委員、榊田 摩琴委員、舟橋 康子委員、奥富 庸一委員、戸野倉 和美委員
(12名)

欠席者：門倉 紗英委員、橋本 亜希委員、岡田 真彦委員 (3名)

<配布資料>

- ・令和6年度 第2回深谷市子ども・子育て会議 次第
- ・資料1 令和5年度子ども・子育て支援事業計画進行管理表
- ・資料2-1 深谷市 私立保育園の利用定員減の考え方について
- ・資料2-2 保育園の利用定員変更について
- ・資料3 深谷市こども・若者意識調査 集計報告書
- ・資料4 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）策定のための若者の意見交換会 報告書
- ・資料5 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）策定に係る関係団体等アンケート調査 結果報告書
- ・資料6 第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）骨子案

－ 1. 開会－

司会（大野課長補佐）

－ 2. 会長挨拶－

奥富会長より挨拶

－ 3. 議事－

規定により奥富会長が議長となり議事を進行する

(1) 報告事項

①第2期深谷市子ども・子育て支援事業計画進捗状況について

（事務局：資料1について説明）

質問なし。

②保育園の利用定員の変更について

（事務局：資料2-1、2-2について説明）

委員：質問ではないが、今回定員減の要件を緩和していただき、非常にありがたいということを伝えさせていただく。定員と同じ数の利用者がいれば園はやりくりができるが、少子化で園が努力しても子どもが入らず定員減を認めていけなければやっていけない状況が出てくるのが見えている中で、現状に合わせて市で配慮してもらえたことはありがたい。

③子ども・若者の意見聴取及び関係団体・事業所調査の結果について

(事務局・ぎょうせい：資料3、4、5について説明)

委員：事業所調査の対象はいくつか。

事務局：手元に資料がないため回答できず申し訳ない。報告書に調査概要を付け加えたい。

(2) 協議事項

①第3期深谷市子ども・子育て支援事業計画（こども計画）骨子案について

(事務局：資料6について説明)

委員：こども・若者意識調査ではお金の面で心配を持っていると回答があった。事業所等調査では、保育者の確保が非常に大変な状況で、保育者の処遇、給与の面での物足りなさからなかなかそこに就職してくれる人がいない。他の地域と見比べたときに、都内の方が少し高いので、流れていってしまうところももったいないと思う。保育者をやろうという人は若者の年代であり、深谷に定着すれば事業者が助かることはもちろん子育て環境も充実し、若者世代が子育てをしていく良循環が生まれるのではないか。課題の整理の中や基本的な考え方に保育者を支援、サポートしていくことについて触れられないか。

事務局：事業所調査でも人材確保が一番大きな課題だと出ていたので、課題として受け止め施策を考えていきたい。

委員：保育の現場では職員が雇い入れたくても来なかったり、入ったと思ったらやめてしまう保育園が多いかなと思う。保育の学校を卒業する人は毎年いるが、時給や給料の良いところに行っていると感じる。こども誰でも通園制度は保護者にとって良いと思うが、受け入れ側がしっかりしていないと受け入れられないことが多くなるかもしれない。調査を見ると保育士が足りない、休みが取れないなどといった意見が出ているので、目を向けてほしいと思う。

事務局：大きな課題であるので担当課とも協議していきたい。

委員：施策の展開は誰がどのように作るのか。

事務局：市役所で取り組んでいるこどもに関する施策を整理して原案を作成し、次回の会議でお示ししたい。

委員：こどもの権利の尊重と自分らしい育ちっていうところでは、社会環境作りを推進するとあるが、子供や若者を支援する人をつくらないとできない。そこに時間とお金をかけないとなかなか子供たちが自分の意見を表明したりすることはできない。

事務局：こどもの意見を取り入れて事業を進めていく取組はこれまで少なかった。これからの課題として取組を進めていきたい。

委員：2人目の妊娠出産に当たって上のこどもをなかなか預けるところがない。子育て短期支援事業はあまり使われていないようだが、どのようになっているのか。

事務局：一時預かり、子育て短期支援事業、ファミリーサポートセンターなどこどもを一時的に預かる

事業はある。利用人数については指摘のとおりではあるが、ニーズを満たすことはできていると考えている。利用の周知や案内を図っていききたい。

委員：妊娠した場合、上の子例えば1・2歳のこどもを預かってもらえるところはあるのか。

事務局：保育の必要性という部分で妊娠出産も保育園に預ける理由になる。期間は妊娠期から出産予定日の2か月後までと期限は区切られるが保育園で預かることは可能である。

委員：毎日預けられるのか。時間制なのか。

事務局：通常の保育と同じである。保育園で定めた時間帯の中で預かることになる。保護者の状況によって午前中だけ預けるといった利用もありうる。

委員：幼稚園の令和6年度の利用者が減少しているが何か理由があるのか。

事務局：新型コロナウイルスの影響で出生数が減少していること、保育料の完全無償化の影響があると考えている。

委員：次回以降、量の見込みを出すに当たって幼稚園の利用者が減っていく中でこども園へ預けたいというニーズを見込むことが必要にはなってくる。新しい幼稚園ができるが、幼稚園と保育園とも幼児教育をしている施設で、小学校への接続ができるように考えて保育を行っているので、その点を踏まえて計画を考えていただけるとよい。

会長：骨子案について承認いただけるか。(拍手) 骨子案について原案どおり承認された。

－ 4. その他－

事務局：次回の会議は、教育・保育の量の見込みと確保の方策、計画素案の検討を行っていただきたい。
開催日は10月29日火曜日午後2時、場所は深谷市役所大会議室を予定している。

－ 5. 閉会－

副会長：以上をもって、令和6年度第2回深谷市子ども・子育て会議を終了する。

(以上、終了)